

- ◆ 2018年1月17日発行ラインナップ
- ・全肥商連新会長に山森氏就任
- ・全複工、全肥商連合同賀詞交歓会
- ・年頭に当たって 他

社) 全肥商連新会長に山森氏就任

1月17日、御茶ノ水の東京ガーデンパレスに於いて一般社団法人全国肥料商連合会（以下全肥商連）の臨時社員総会・臨時理事会にて会長交代の人事が行われ、山森章二氏が新任された。山森新会長は東京大学法学部卒業後三菱商事株式会社に入社。同社肥料部出身で海外赴任時代はアルゼンチンやアメリカ等で海外肥料原料販売に従事。国内肥料事業においては当社常務取締役営業本部長、宇部興産農材株式会社代表取締役副社長を歴任、現在エムシー・ファーターコム株式会社の代表取締役社長を務められている。山森会長は暫くエムシー・ファーターコム株式会社の代表取締役社長と兼任で連



合会運営に当たる事となっている。懇親会での新任挨拶で山森氏は「農業を取り巻く環境は厳しいが、我々が持つ各々得意な力を生かし、皆でつなぎ合わせて肥料業界をPRしていきたい」と述べられた。一方、退任された上杉前会長は山森会長のサポートとして5月末まで会長代行として補佐される事が発表された。会の益々の発展を祈念したい。

全国複合肥料工業会・全肥商連合同賀詞交歓会

特別講演会 衆議院議員 石破茂氏

「日本列島創生論 ー地域は国家の希望なりー」

全複工と全肥商連の合同賀詞交歓会において衆議院議員の石破茂氏より「日本列島創生論 地域は国家の希望なり」と題して特別講演が行われた。衆議院議員、農水省、経産省、学識者、肥料商、メーカー、商社関係者合わせて300名近い業界関係者が参集し盛況な会が催された。石破議員の講演では明治以降の人口増加は経済の発展と共にピークを迎えたが、今後ジェットコースターのように急激な人口減少や農業従事者の人口減になると分かりやすく数値で紹介され、人口減は国難だと説かれた。農業分野での話では日本は四季があること、地形や水利において農業に向けた環境を持つ国はないとも説かれ、AIやIoTを農業分野にも取り入れて更なる発展が期待出来るとし、また高品質な国産食料を世界に売りこむ事もすべきだと力説された。時代のニーズの多様化と人口減少により今まで日本が経験した経済発展を再び実現することは厳しいが、地域の巧の技が海外で評価されている事例を数々紹介、日本もまだ発展出来る分野があると将来の日本における明るい展望を述べられた。



年頭に当たって 当社取締役社長 三宅誠二

新年あけましておめでとうございます。

昨年はいくつかの地域で台風、豪雨、長雨等の天然災害に見舞われ、農作物の生育においても多くの被害が出た年となりました。しかしお正月は全国的によい天気にも恵まれ、新年としてはよい始まりになったのではと思います。さて、平成30年ですが、農業においては減反政策の見直しといった大きな制度の変更があるだけではなく、昨今世上をにぎわしている、人工知能(AI)、IoT、ITといった新たな技術の農業への導入に向けて、各所で実証試験等が本格的に進められる年になりそうです。その意味で、農業分野でもいろいろな変化が顕在化する年になるように思います。私どもとしましては、本業である肥料等の農業資材の販売を通じ、農業生産に携われる方々とともに、これらの変化も積極的に取り組んでいき、日本農業の発展に微力ではありますが貢献してまいりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。最後に、平成30年が本誌をご購読いただいている皆様にとりまして素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。

和歌山県温州みかんのご紹介

去る12月、和歌山県有田市宮原町須谷の生駒みかん農園さんを訪問。収穫時期の多忙なため園主が不在で奥様にお話しを伺った。同園では、2haの園地にゆら早生(極早生)・田口早生・石地温州が80%、他に柑橘類「不知火」「せとか」「はるみ」「清見」「セミノール」を栽培している。反当たり3~4トンの収穫があり、年間60~80トンの収量となる。同園の特徴は、全て個選販売している事。初めてみかんの選果機を見たが、実に細かく選別されているのに驚いた。3S・2S・S・M・L・2L・3L以上の階級で秀・優の等級に選別して箱詰めされる。農作業としては、早生品種がメインである同園では、10月下旬からの収穫作業が一番忙しい。1月上旬まで続くがこの時期は家族だけでは賄えないため、アルバイトを頼んでいる。肥料は、おから堆肥、魚粉等の有機質を春と秋に施肥している。今年のみかんは、供給量が極端に少ない。近年の天候不順で樹勢が弱まり、着果が少ない。樹齢50年以上の老木の更新が進まず、なり疲れが顕著となった。また、園地の多くが傾斜地にあり、手作業になるため高齢化の影響も少なからず関係している可能性がある模様。京浜市場では、供給不足で21年振りの高値がついたとの新聞報道がなされ、実際に有田地区を回ってみたが、12月中旬にもかかわらず例年のようなみかん畑の風景ではなく、寂しい感じがした。来シーズンに期待したい。

みかん狩り

此処数年、清和肥料工業(株)和歌山支店さんのご厚意で、和歌山県有田郡有田川町の林農園さんにてみかん狩りを行っている。今回は、清和肥料さん、シコー(株)さんと当社の有志で敢行した。例年みかん狩り用に選定ハサミ・ダンボール箱をご用意頂いており、みかん狩り用の樹も確保されている。みかん狩り初めての方もいらしたが、ただもぎればよいと言うわけではない。ヘタの切り方はなるべく短くする。長いと他のみかんと当たり傷つく可能性がある。また、実際やってみると、けっこう体にはきつい。いつもは10Kgダンボール箱に詰める所が今回は5Kg箱だったのは、異常な年であると実感した。試食もしたが、大変甘い美味しいみかんであった。みかん狩りの後の懇親会は非常に盛り上がりました。清和肥料工業(株)井窪支店長お世話になりました。有難うございました。(大阪支店)



少し遅くなりましたが、皆さんはどんなお正月休みを過ごされたでしょうか。年が明けてからは寒波による大雪もあり、大規模な交通障害も発生しました。今年はお天気も平穏に過ごしたいですね。本年も様々なニュースをお届けして参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>